

50周年記念山行 槍ヶ岳～烏帽子岳 山行報告

2016年8月5日（金）～9日（火）

山域：北アルプス 南部

上高地～槍ヶ岳～双六岳～野口五郎岳～ブナ立尾根～高瀬ダム

山行形態：テント泊縦走

メンバー CL室 SL齋藤（健） 山内 広木（愛） 井上（志） 澤田（淳）
渡辺（純） 齋藤（一） 山本

概略

今回山行は、毎日ロングコースで体力を要する山行であった。しかし、不肖室リーダーは二日目にお腹を壊し双六でメンバーと別れる。その後は齋藤（健）さんをCL、澤田さんをSLにお願いし、無事全行程を完走することができた。1名下山時に膝が痛み、行動時間が大幅にオーバーしてしまった。

今回は長いので、山行報告は1日目井上さん、2日目齋藤（一）さん、3日目澤田さん、4日目山本さんをお願いした。長文ですが、ご一読願いたい。

50周年記念山行 北アルプス南部 山行報告 1日目

1日目：8月6日（土）晴れ

コースタイム：上高地 6:15—横尾 9:30—槍沢ロッジ 12:00—17:30 殺生ヒュッテ テン場

6日 5:25に夜行バスで上高地に着いた。ほどなく皆さんが松本からタクシーで着き、6時前に合流することができた。朝食をとり装備を整え出発した。風もなく寒くなく歩きやすい。順調に1時間で明神に着き休憩、さらに1時間で徳沢園に、休憩してまた歩き、横尾に着くころには暑い、暑い。日陰もなく休み、行動食を取り、いざ槍沢へ。



上高地で合流、準備体操



横尾はまあまあの賑わい



槍沢ロッジから穂先を見る



ババ平のトイレは新築完成していた



槍ヶ岳を仰ぎながら・・・



ニリンソウや多くの花に癒され

やがて梓川が急流となり、ザックの重さを感じる。昨年はどこからも槍はみえなかったが、今回は容易に見ることができてうれしい。黙々と耐えて歩くと天狗原分岐、さらに歩くと播隆上人の岩穴に来た。そしてやっと今夜の泊りの殺生ヒュッテが見えてきた。石ゴロゴロの上にテントを張り、落ち着いた。空はみごとな満天の星空となったが流れ星はみえなかった。

翌朝、ご来光の後、槍ヶ岳初登頂でき 360 度の景色を見て幸せでした。CL,2 人の SL, メンバーの皆様大変お世話になりありがとうございました。

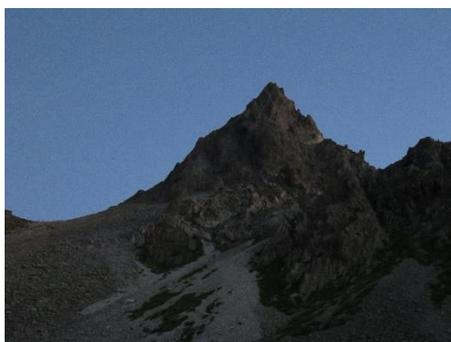
山行報告 2日目

8月7日 山行2日目 (記録 斎藤一郎) 天候 晴れ

【コース】殺生テン場出発 4:30～槍ヶ岳山荘前 5:15～槍ヶ岳山荘出発 8:00～縦沢岳 12:30～双六小屋 13:20～休憩～双六小屋発 14:00～双六巻道～三俣小屋テン場着 18:00

3時起床、日の出には早い。昨日の疲れで早々に休んだがテント接地面の凹凸で何度も起きる。これで今日の目的地、三俣小屋まで持つか不安になる。槍ヶ岳が朝日で焼ける前にテン場を出発。パーティーは槍を目指し意気揚々だがそれ

ぞれの速さが違う。



夜明け前



一枚撮って西鎌尾根へ

日頃の運動不足を自分で呪いながらガレの道に息を切らし夜明けを迎える。小屋に着いたら荷物を置いて槍に取付き頂を目指して行った。齋藤二人、広木さん、室さんは荷物番。好天でガスに阻まれなかった山頂は遠方迄見渡せるとても良い条件であった様だ。さて、あれだけの喧騒があった小屋前も落ちてきてきた頃、西鎌尾根を歩く我々は、これから迎える雄大な峰々を前に気持ちの高揚を抑え出発。



まだ元気な時



鎖場を通過するメンバー(槍～双六)

千丈乗越迄イッキに下降。ミックスな道に閉口しながら振り返れば大きな槍に圧倒される。

それにしても西鎌尾根は長い。左俣岳は尾根の中間地点だが時間ばかりが過ぎて行く。乗越で休憩を取りながら露で重量を増したテントを乾かし、少しでも

荷の軽量を図る。登下降を繰り返し樅沢岳に立つ頃、計画タイムが心配になり始めた。双六小屋に着いた時、パーティーとして一つの決断が訪れた。前日より体調が心配された隊長の室さんとこの小屋で別れ、養生して最終日に予約した長距離バス（信濃大町）で合流と変更になる。

S Lの齋藤（健）氏をC Lとし古参澤田さんをS Lに編成変えして残り 3 日間を歩くのだ。この時点で 14 時を迎え双六山頂を断念。一刻も早い三俣テン場を目指すコース(巻道ルート)を選択。しかしこのルートも以外に歩が進まず、通過時間が流れるように過ぎる。モチベーションが下がるが、前もって三俣山荘に予約して貰ったジビエシチュー(パーティーの内 5 人のみ)を食する事だけが自分を支えていた。18 時前にテン場に到着。小屋主に到着遅れを責められてしまったがテーブルに並んだサラダとシチューを肴にビールで一杯！あ～生きる喜び、山行の楽しみ！下戸の自分にも至福の時を与えてくれた。その後のコーヒータイムまで皆動かず。



双六小屋前

山行報告 3日目

50周年記念山行報告 上高地～烏帽子岳3日目

8月8日(月) 晴れ

行動予定 三俣蓮華～鷲羽岳～野口五郎岳～烏帽子小屋

澤田淳子記

今日からリーダーは、斎藤健志さん、サブリーダーは、前日室さんご指名の澤田となり、リーダー打ち合わせする。とにかくこのパーティのコースタイム1, 5倍のペースでは、鷲羽のピークは、無理と判断し、黒部源流方向のまき道に行くこととする。遅れてしまうHさんを先頭にIさん、Yさんと続いてもらい、パーティが、別れることなく進むこと、荷物が重いので、50分歩いたら10分休憩すること、午後になると疲れて、休憩時間が長くなってしまいうので、10分以上休まないことなど決めて、納得してもらいスタート。三日目の疲れが、出ていて、すでにスタートも4時半予定をとうに過ぎ、全員そろった5時10分にやっとスタートとなる。先が思いやられるが、竹村新道にエスケープすることは、メリットはなく、次のパーティに明日の烏帽子岳も踏んでもらうので、烏帽子岳もピークを踏まないこととする。



鷲羽分岐（三俣蓮華）出発

黒部源流の流れに向かい、岩苔乗越7時30分到着。20分後にワリモ乗越到着。水が、豊富で美しい景色の中、遠くかわいい雲の平山荘が見える。休憩がてら濡れたテントやフライを干す。気持ちの良い風がありすぐに乾く。水晶小屋到着9時。ここで、パトロールのお兄さんが、話しかけてくださり、心強い思い。ここから真砂岳までは、ザレていたり痩せていたり尾根で、気が抜けない。鏝も硫黄も大分遠くなり、よく歩いてきたなあ感慨深い。野口五郎岳をまき、皆がだいぶヨレヨレになってきたところで、野口五郎小屋14時15分到着。コースタイム約5時間のところ9時間もかかっている。この分だとテント場到着は、18時半くらいだろう。この小屋は、天水しか売っていない。まずいけれど仕方ないと飲んでいるうちアラ不思議！慣れて美味しくなってくる！みんなは？とみたら何と500円のジュースやコーラなんか飲んでいる。よっぽど疲れたんだね！烏帽子小屋のテント場まで、がんばろう！とリーダーは、暖かく励ます。途中、雷鳥の親子やかわいいコマクサの群落に出会い心励まされる。ガスが出てきて、風強く寒い。上着を着ても、ゆっくり歩いているのが辛くなってきたとき、ブロックン現象がおこり、きれいな虹が見える。小屋が、見えたように思い口にするとSさんも見えると言う。この時間ではテント場ももう残っていないだろう。一刻も早く行ってテント手続きしようとリーダーに断り私だけ走る。しかし行けども行けども、小屋にたどり着けない。風でガスがきれ、右に青い高瀬ダム湖が、のぞくだけ。幻だったのだ。

18時半やっと到着したテント場は、小屋から一番遠い池の横が、かろうじて残っていた。

小屋までの登りの遠く感じたこと！13時間20分の長い山行は、終わった。



水晶小屋前



野口五郎小屋前

山行報告 4日目

山行記録-50周年 上高地～烏帽子 第4日目（最終日 8/9）記録：山本暁子

8/9（火）烏帽子小屋～高瀬ダム～薬師の湯

3：00 起床

5：00 烏帽子小屋

6：30 ④番表札

8：00 ⑩番表札

8：50 裏銀座登山口（12番表札）

9：20 高瀬ダムタクシー乗り場

10：00 薬師の湯

3：00 起床。霧と小雨。いよいよ最終日です。

今日のコースタイムは4日間で最も短い5時間ほど。

入山以降毎日12時間以上歩き続けてきた私たちにとって物足りないくらいの時間ですが、今日の下山道は北アルプス三大急登であるブナ立て尾根を一気に下るため気を引き締めます。



烏帽子小屋前

5:00 集合写真撮影後、烏帽子小屋よりブナ立て尾根に入ります（写真①）。
ブナ立て尾根には合数が書かれた表札が置かれていてその表札を目印にあとどれくらいで高瀬ダムに着くか知ることができます。

50分に10分の間隔で休憩を入れ、最終日という事で疲れきっているはずなのに皆、楽しくおしゃべりしながらストックを使ってテンポよく歩いて行きます。ブナ立て尾根というだけあり、途中立派なブナの木が何本もありました。急坂で足元には無数の木の根が伸びており、滑りやすく、しっかり足元を確認して進む必要があります（写真②）。



写真①



写真②

6:30 ④番表札（写真③）、8:00 ⑩番表札...?（写真④手にストックタコができています）10合目がゴールだと思っていたのに下山道はまだまだ続きます。???何合目までであるの???と、私たち（がっかり）。



写真③



写真④

私たちとすれ違って登ってきた救助隊の方が「12合目がゴールだよ」と、教えてくれました（がっかり）（写真⑤）。



写真⑤



写真⑥

8:50 いよいよ待ちに待った 12 番表札、裏銀座登山口に到着です (写真⑥)。

その後、高瀬ダムの入口まで平坦な道を歩きます。

水不足の影響か高瀬ダムの水位は低く、一部涸れている箇所もありました (写真⑦)。



写真⑦



写真⑧



写真⑨

9:20 長いトンネルを通り、高瀬ダム入口のタクシー乗り場へ到着。皆、怪我無く無事に下山し、50周年のミッションを達成できたことを喜び合いました。集合写真を撮影後 (写真⑧)、2台に分かれてタクシーに乗り、10:00 薬師の湯

へ到着。

長かった4日間が幕を閉じました（写真⑨）。

4日間を振り返ると様々なことがありました（割愛）。

その一つ一つが山をこれから続けていく上で大切な経験ばかりで今回の山行では本当に多くを学ぶことができました。

そして大変だったけれど楽しかった、充実した、行って良かった、という思いが強く残る山行でした。

メンバーの皆さんお疲れさまでした。そしてありがとうございました。

山本暁子

☆☆最後に、

CL交代してくださった齋藤（健）さんからのまとめ報告です。

8月7日 双六小屋から交代してCLを務めた。

三俣蓮華小屋までコースタイムは約2時間、双六小屋14時スタートした。

双六小屋に着くまでは双六岳山頂経由を当然のように考えていた。

しかし、CL交代を機に、疲労したメンバーが多いと判断し、時間のかかる山頂経由をやめ、ショートカットコースを全員で行くことにした。

三俣蓮華天場到着18時、約2倍のコースタイムに今後の行程と行動を考えた。

8日の行程は一番の長時間コース、どう乗り切るか、エスケープするとしたらここから双六に戻り下山しかない。

天候に不安はなく、7日の行程で遅れがちだった広木愛子、井上志津子の荷を軽くすることにし、また齋藤一郎、澤田淳子の助言を受け、鷲羽の山頂を避ける脇道コースを選択した。

裏銀座コースのメインとなる鷲羽岳山頂を外すことは自分自身悩ましいことだったが、とにかく全員で先に進むにはこの選択しかなかった。

結局、コースタイムの約1.5倍を掛け18時半に烏帽子小屋天場着でなんとかぎりぎりミッション達成の目途が付きほっとした。

9日ブナ立て尾根をほぼコースタイムで下り山行を終了した。

体調不良で一時的に別行動となった室リーダーと再会し、8日に体調が回復して鷲羽岳に登れたことを聴き、山頂を回避して進んだ忸怩たる思いが救われた。

（敬称略）

（補足）体調不良で双六小屋にてメンバーと別れた室でしたが、安静にして寝ていたところ、翌日おなかの調子もだいぶ良くなったため、急遽鷲羽岳に登ろうと計画を変更して一人荷を軽くし、双六小屋～鷲羽をピストンしました。

（双六小屋に2泊。）本来、山行管理に事前届けが必要であるが、携帯電話の電波も通じなかったためお許し願いたい。